

平成28年度

後志の研究活動

研修部長 倶知安町立東小学校

校長 中 田 亨

1 はじめに

後志校長会では4つのブロックに分かれ、それぞれ共通の研究領域を設定して3か年継続研究を推進してきた。第14次研究の最終年度にあたる今年度は、学力向上のための「後志学校教育プラン」を核とした過去2年間の取組の成果と課題を踏まえ、実践を通して研究を深めてきた。研究大会では、各ブロックごとにまとめられた提言に基づいて各学校での取組状況を交流し、議論を深める中で3年間のまとめを行うとともに優れた実践を自校の学校経営に取り込み、共同研究としての歩みを着実に前へ進めていきたい。



2 研究計画

(1) 研究主題

『未来を拓く、豊かで確かな学びを創造する学校教育の推進』～信頼と活力を生み出す学校経営の充実と改善を目指した「学力向上の後志学校教育プラン」の活用～

(2) 研究主題設定の理由

今年度は第14次研究の最終年度となる。過去2年間の取組を踏まえて、副主題を～信頼と活力を生み出す学校経営の充実と改善を目指した「学力向上の後志学校教育プラン」の活用～とした。教育プランの活用については校長が自身の経営ビジョンを具体的に示し、それが組織的な学校経営の推進につながり、成果を挙げてきている。そのことから「後志学校教育プラン」は校長の経営ビジョンの明確化、共有化、また組織活性化のための重要なツールとしての機能を果たしてきている。今後も自校の状況に合わせて活用することでより一層学校経営の充実と改善を計画的に推し進めていくことが求められる。今年度は昨年度までの2年間の研究を基に3年間の総まとめとして「後志学校教育プラン」を核とした取組の一層の充実を図り主題の解明を図っていきたいと考え、主題及び副主題を設定した。

(3) 研究の重点

- ①町村、ブロック研究組織を生かし、年次計画を明らかにした中で組織的・継続的な研究の充実を図ること
- ②研究成果を、経営課題、教育課題の究明と経営ビジョンの構築に生かすこと
- ③研究成果を、課題解決に向けた手だての実践に生かすこと

(4) 研究計画

- ①後志小中学校長会研究大会を開催
- ②各ブロックにおいて「ブロック研究会」を開催
- ③「研究の手引き」「研究紀要」の発行
- ④全道・全国大会への積極的参加と全道・全国大会提言のためのプロジェクト活動の推進
- ⑤学力向上のための「後志学校教育プラン」の有効活用と学校力向上を目指した取組の推進

3 研究の概要、研究活動など

(1) ブロック研究交流会

ブロック	開催日	開催地	研究領域	提言者(所属)
南	9月27日(火)	ニセコ町	健全育成	高野 秀樹 校長(白井川小学校) 橋本 直樹 校長(蘭越中学校)
山麓	9月21日(水)	倶知安町	教育課程	中村 和男 校長(鈴川小学校) 廣澤 信弘 校長(留寿都中学校)
岩宇	9月20日(火)	共和町	人材育成	水口 正紀 校長(泊小学校) 安保 幸司 校長(岩内第二中学校)
北	9月21日(水)	赤井川村	組織づくり	中川 亨 校長(登小学校) 間山 美和 校長(仁木中学校)

(2) 平成28年度後志校長会研究大会

◇期 日：10月25日(火)

◇場 所：ニセコ町民センター

◇助言者：北海道教育庁後志教育局義務教育指導監 沢田 紀之様
北海道教育庁後志教育局教育支援課長 行徳 義朗様
北海道教育庁後志教育局義務教育指導班主査 小野 篤夫様

◇提言者

分科会等	研究領域	提言者	研究課題
第1分科会 小学校 課題1	南 健全育成	黒松内町立白井川小学校 校長 高野 秀樹	「児童の健全育成と危機管理の推進における校長の在り方」
	山麓 教育課程	喜茂別町立鈴川小学校 校長 中村 和男	「豊かで確かな学びを創造する教育課程の改善と充実」
第2分科会 中学校 課題1	岩宇 人材育成	岩内町立岩内第二中学校 校長 安保 幸司	「教職員の資質能力の向上と協働性を高める学校経営」
	北 組織づくり	仁木町立仁木中学校 校長 間山 美和	「教職員の協働性を高める学校経営」

(3) 北海道小中学校長会小樽大会

◇期 日：9月9日(金)・10日(土)

◇場 所：小樽市民会館

◇研究領域：学校経営の第2分科会「組織・運営」

◇提言者：古平町立古平小学校長 中田恭太郎

『経営ビジョンの実現に向けた組織づくりと
活性化を進める校長の在り方』

学力向上の「後志学校教育プラン」

平成28年度 学力向上の後志学校教育プラン		〇〇町立〇〇小学校	学級数	8学級
状況	実施計画の方法 ・各学年で学習指導要領を踏まえ、国語、算数、英語、総合、道徳を重点的に実施する。国語、算数、英語は、教科書の内容を基に、授業内容の充実を図る。国語は、読書活動や調べ学習を通して、読者の心を育て、表現力や想像力を高める。算数は、基礎的な計算能力を身に付け、応用問題の解決力を高める。英語は、基礎的な英語力を身に付け、コミュニケーション能力を高める。総合は、生活学習を通して、生きる力を育て、社会性を高める。道徳は、道徳教育を通して、豊かな心を育て、社会性を高める。	分析結果		
到達目標	学力・学習 ・各学年で学習指導要領を踏まえ、国語、算数、英語、総合、道徳を重点的に実施する。国語、算数、英語は、教科書の内容を基に、授業内容の充実を図る。国語は、読書活動や調べ学習を通して、読者の心を育て、表現力や想像力を高める。算数は、基礎的な計算能力を身に付け、応用問題の解決力を高める。英語は、基礎的な英語力を身に付け、コミュニケーション能力を高める。総合は、生活学習を通して、生きる力を育て、社会性を高める。道徳は、道徳教育を通して、豊かな心を育て、社会性を高める。			
項目	取組の具体 ・各学年で学習指導要領を踏まえ、国語、算数、英語、総合、道徳を重点的に実施する。国語、算数、英語は、教科書の内容を基に、授業内容の充実を図る。国語は、読書活動や調べ学習を通して、読者の心を育て、表現力や想像力を高める。算数は、基礎的な計算能力を身に付け、応用問題の解決力を高める。英語は、基礎的な英語力を身に付け、コミュニケーション能力を高める。総合は、生活学習を通して、生きる力を育て、社会性を高める。道徳は、道徳教育を通して、豊かな心を育て、社会性を高める。	目標値と検証方法 ・各学年で学習指導要領を踏まえ、国語、算数、英語、総合、道徳を重点的に実施する。国語、算数、英語は、教科書の内容を基に、授業内容の充実を図る。国語は、読書活動や調べ学習を通して、読者の心を育て、表現力や想像力を高める。算数は、基礎的な計算能力を身に付け、応用問題の解決力を高める。英語は、基礎的な英語力を身に付け、コミュニケーション能力を高める。総合は、生活学習を通して、生きる力を育て、社会性を高める。道徳は、道徳教育を通して、豊かな心を育て、社会性を高める。	スケジュール 1 2 3 4 5 6 7 8 9	

4 おわりに

14次3か年継続研究では「後志学校教育プラン」の作成や改善に教職員に関わりをもたせることで学校運営参画意識を高めたり、ミドルリーダーの育成や組織の活性化に結び付けたりしていった。また、「徳育」「体育」へ発展させたり、保護者へ周知するなど新たな活用も進み、多くの成果を挙げて終えることができた。次年度からは第15次研究がスタートする。第14次研究の成果と課題を踏まえながら次期学習指導要領の実施も見据え、チーム後志が一丸となって取り組んでいけるような実効性の高い研究としたい。